哀悼渥美浜市君之死

彼が残した最後の言葉

二十四日午前三時、我等の同志、勇敢なる前衛、第六班の渥美浜市君は急死した。同君は年、正に二十九才楽器会社ベニヤ部の職工として、彼は吸血鬼天野千代丸の下に働いていたが、争議勃発以来、常に第一線に立ちて活動し、去月中旬松職所を遂行中、群衆同志会の無頼漢に取囲まれ、全治一週間を要する傷を負はされたことは既にその当時報導して諸君の記憶に新たなる所である。

然しも勇敢なる同君は、更らに屈する色なく、益々憤激して会社の先頭に立ち働き、其の奮闘振りは誠に目覚しいものであった。

同君が斯くの如く階級戦に勇敢なる一方、孝心厚く、また我々の敬慕措く能はざる底であった。官憲及び暴力団との戦ひに奔命して居る、老母の膝下に病める母親を看護し、慰め、不眠不休の活動をした。右手には母への孝！左手には争議団同志への忠誠！彼の如きを真の勇士と云ふべきである。嗚呼悼しい哉。

彼は今慈愛深き母と共に帰らぬ鬼となった。彼れが右手にかざした赤旗の勝利の凱歌を聞かずして逝ったことは如何に無念であったらう。「俺は今死にたくない！」「必ず争議に勝ってくれ！」これを同君が、両手を差しのべて叫び続けた、最後の言葉である。

惜しむべし勇敢なる同志、渥美浜市君は逝去した。然かも彼れが命をかけて戦った争議の結末を見ずして万斛の恨みをのんで彼は逝った。階級戦の戦士、渥美君の死を弔へ！彼れに対する唯一最高の香華は、争議を勝利に導くことである。九百の争議団同志諸君！！我々争議団が此の争議に勝利を得て、彼れの墓前に之を報告する時、彼は安らかに眠ることが出来るであらう。

勇士の霊を弔ふために勇敢に戦へ！！

不当検束、拷問、侮辱、

官憲の人権蹂躙に抗議せよ！！

警察署内より洩れし血の叫び

官憲の人権蹂躙事件は随所に起り猛烈なる反対運動が起って来た。新潟の殺人事件、尼ヶ崎の殺人事件等官憲が人民を引致して拷問死に到らしめたのである。

浜松が楽器の争議団を不当検束し、暴行到らざるなきことは暫々市民諸君に訴へた。

我等は今茲にその事実の一端を明かにして益々狂暴になり行く浜松警察の人権蹂躙に抗議するものである。

六月廿三日楽器会社株主総会の当日、同署の司法主任は多数の巡査と共に、検束した女工を壁の前に立たせ、「エイッ、エイッ」と気合ひをかけて、竹刀を胸元に突きつけ、繊弱き彼女達は余りの恐ろしさに卒倒せんとした。

七月十六日、会所に検束された矢野某を、後手に縛して梁に吊し上げて殴打し、或はボンボン蹴りつけて水の入れたバケツを持たせ、滅多矢鱈に殴打された。彼はその苦しさと、無実の白状を強いられるにこらえかね、「許してくれ！腕が折れる！」と叫んでゐた。全く検束されてゐた彼が戦友は、この惨虐なる拷問を見て、面を上げる者はなかったと云ふ。

争議団のK君は、十六日の示威運動に何等関係ないにも拘はらず検束され、三日間も止め置され、其間、間断なく監房より引出して、或は数名の刑事で乱打し、巡査部長は同君を道場に引き出して四五回背負ひ投げで叩きつけ、其上起き上らうとするのを足で蹴って絶息しそうな目に会はした。

来浜せる上村、眞下両弁護士は詳細に実情を聴取し、（右はその一部分に過ぎない）一大抗議をすることになってゐる。

労働争議に際し、警察が資本家のために、労働者を迫害することは決して珍らしくない。されど斯くの如き狂暴を敢てした者は、未だ嘗て浜松警察以外にないのである。

我々は単に労働争議に於ける場合のみに限らず、凡ゆる場合に於ける警官の人権蹂躙に反対する。我等が先きに人権蹂躙反対の声を挙げてより、市民諸君より幾多警官不当行為の生きた事実の投書に接した。我々は之を以て、人権蹂躙反対の一大運動を起さんとす。全市民諸君！！諸君が受けた、警官不当迫害の事実を我等に報告せよ！！

我等と共に人権蹂躙反対運動に参加せよ！！

官憲の暴圧と

攪乱運動に対抗せよ！！

交渉委員の提案した要求を支持せよ！！

再三警告した如し、以上の様な敵警官の不当なる検束による争議破壊運動あり、また一方に彼等官憲資本家と気脈を通じて、味方を敵に売らんとする裏切一派の攪乱運動あり、色々な流言を飛ばして争議団を中傷せんとする者がある。されど九百の団員諸君！！今や我々は最後の試練をうけてゐるのだ！この死線を突破せよ！！

我々が選んだ代表、交渉委員は、会社の案に反対し、最も至当なる案を提出して闘ってゐる。日本には幾多の労働争議の実例がある。我々は決して他の実例より過少と云ふことが出来ても、過当な要求をしてゐるのではない。若し天野にして、この我々の最後案をも承認せず、徒らに争議を永びかすなら、我々は断じて承知せぬ。天野が社長を辞めるか！我々が斃れるか？最後までやらう。

九百の争議団員は心を一にして、交渉委員を支持せよ！！最後の要求を貫徹せよ！！

大正十五年七月　日

日本楽器会社争議団本部